

6.常位胎盤早期剥離

常位胎盤早期剥離とは、赤ちゃんがお腹の中にいる間に、胎盤が子宮から剥がれることをいいます。赤ちゃんは胎盤を介してお母さんから酸素や栄養を受けているため、胎盤が先に剥がれると酸素が不足し、脳性麻痺などの障害が残ることや死亡することがあります。また、お母さんが重篤な状態となることもあります。そのため、大至急の対応が必要です。

<どんな症状？>



その他の症状
胎動の減少
腰痛・めまい
便意など…

こんな時は病院へ
相談しましょう！



腹痛やお腹の張り、性器出血などは、切迫早産の徴候、また陣痛やおしるしなどの分娩の徴候と判別が困難なことがあります。

しかし、急な腹痛、持続的な痛み、多めの出血などは常位胎盤早期剥離が疑われます。代表的な症状がみられなくても、いつもと違う症状があり判断に困るときは我慢せずに病院へ相談しましょう。

<常位胎盤早期剥離になりやすい危険因子とは？>

妊娠高血圧症候群、常位胎盤早期剥離の既往、切迫早産、腹部の外傷、喫煙などの危険因子に該当する場合、常位胎盤早期剥離を発症しやすくなります。

※妊娠高血圧症候群、喫煙については別ページをご参照ください。

●常位胎盤早期剥離の既往

以前の妊娠で常位胎盤早期剥離の既往がある場合、必ず妊婦健診で主治医に相談しましょう。

●腹部の外傷

妊娠中に腹部の外傷を受けた時は一定期間の観察が必要なことがある為、まずは病院に相談しましょう。

●切迫早産

安静や薬の内服などの指示が出されます。しかし、自己判断による内服は、常位胎盤早期剥離などの症状が隠される恐れがある為、いつもと違う症状がある時はまず病院に相談しましょう。

出典：産科医療保障制度 再発防止委員会からの提言

<http://www.sanka-hp.jcqhc.or.jp/documents/prevention/theme/disease/guidance.html>